温故知新　その十二　海進・海退Ⅰ

故（ふる）きを温（たず）
ねて新しきを知る

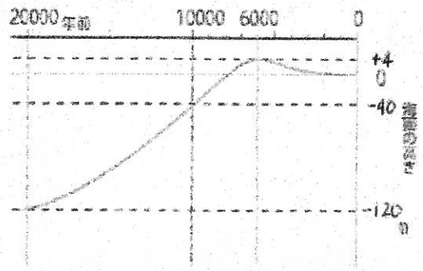
地球温暖化の影響が、異常気象とか海面の前進（海進）・後退（海退）等の自然現象に現れているようです。

これから数回にわたって、市の池子桟敷戸遺跡調査報告書に掲載されている「鎌倉・逗子地形発達史、上山進二」や他の資料を基にして、逗子の海岸線の変遷について紹介したいと思います。

地球は寒い時期（氷河期）と温かい時期（間氷期）が繰り返されています。氷河期には海水が氷河として固定されてしまうので、海水の減少・海岸線の後退（海退）、暖かい時期には氷河が解けて海水が増加・海岸線の前進（海進）となります。

約２万年前に最後の氷河期が終わり、今は間氷期にあるようですが、間氷期の間にあっても緩やかな変動があります。現在私たちが経験しているのは、この間氷期の間の緩やかな変動です。

最後の氷河期が終わってから海進が始まり、約６千年前に最大の海進（縄文海進）があり、その後海退が始まり現在に至っています。右の資料が２万年前からの海面の高さを示しています。

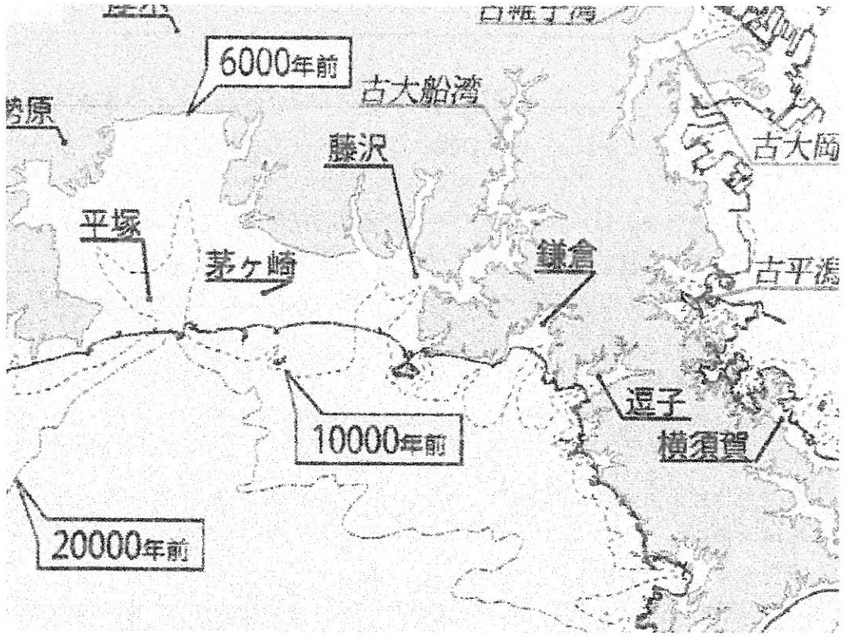


海面の高さの変化モデル図

地図上で **6000 年前**の縄文海退の際の海岸線を示したのが下の地図です。相模平野が伊勢原近くまで海となり、大船付近が古大船湾として深く海が入り込んでいます。逗子湾が沼間・池子まで入り込んでいるのがわかります。

黒線が現在の海岸線、**10000 年前**、**20000 年前**は各々の時期の海岸線を示しています。

２万年前は今と比べて１２０メートル低かったそうです。



（注）本文にある資料は、神奈川県立生命の星・地球博物館の資料を借用しました。

山の根在住
鈴　木　為　之

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第８号　（準備会から通算第２９号）
発行日　　平成２９年１２月２日
発行所　　逗子市久木２－１－１
久木小学校区住民自治協議会
発行人　　田倉　由男

・・・特集；住民協・意見交換会・・・

第７回住民協役員会

１１月４日（土）１５：００～１５：５０・久木会館で２６名（役員１３名）が参加して開催されました。主とした審議内容は次の通りです。

１．高野副会長逝去に伴う役員補充の件

当住民協副会長高野安代様（山の根親交会会長）の逝去に伴う副会長欠員の補充について、重要な緊急を要する事項として審議を行い、山の根親交会から推薦のあった龍崎茂人様が就任することとなりました。尚、龍崎様は山の根親交会会長代行に就任されました。

役員会からのお知らせ

①今期の会計の見通しと来期への配慮

１０月度現在の予算の執行状況は、予算510,000 円に対して 293,049 円の支出で５７．５％、期末の予想は９８％です。

３０年度は市の財政難のため厳しい運営が想定されます。幾つかの事業が本年度からスタートし３０年度に本格的な活動に入ることが予想されるため、来年度に支障が生じないよう運営上の配慮が必要となります。３０年度の想定される予算額は 410,000 円です。

②西部地区地域包括支援センターが一時休止

１０月末日で、同センターを運営してきた清光会が運営から手を引いたため、次の運営の主体が決まるまで、担当が次のようになります。

✦久木地区と小坪地区及び新宿４丁目の一部・・・逗子市基幹型地域包括支援センター（市・福祉部内、８７３－１１１１））

✦新宿１～３丁目、新宿４丁目の一部・・・逗子市中部地域包括支援センター（逗子市社会福祉協議会内、８７２－２４８０）

市広報によると、新たに運営の主体となる事業者を募集して、３０年４月から、小坪コミュニテイセンターの中で、新しい西部地区地域包括支援センターとして再開する予定。

久木会館で行っていた毎月のイベントは３月まで休止となります。

問い合わせ先は、福祉部高齢介護課・高齢福祉係（８７３－１１１１（内２５３））へ。

住民協・意見交換会

１１月４日（土）１３：３０～１４：５０分、久木会館で開催しました。

開催の趣旨は、住民協が発足して半年が経過、住民の皆様と直接対話する機会を作り、ご意見を諸活動に反映させていきたいこと。参加者は３３名でした。

１．会の次第は次の通りです。

総合司会；小林（副会長）

１部　上期の活動報告；鈴木（事務局長）

　　今後の活動展望；田倉（会長）

２部　部会からの報告；４人の部会長（代行）

３部　討議；討議司会は田倉

２．各報告の要旨は下記の通りです。

⑴　２９年度上期の活動報告（鈴木）・・・

①　広報；全戸配布広報誌「住民協ひろば・特別号」の発行５６００部、月刊広報誌「住民協ひろば」の発行１～７号まで各５５０部

②　部会活動；４部会が活動（省略、内容は部会報告を参照）

③　討議した事項；

✦民生委員児童委員の欠員ついて・・・逗子市は民生委員児童委員の欠員率が高い自治体であり、その対策として高津会員（市民生委員児童委員協議会会長）から自治会或いは住民協の中に民生委員・児童委員推薦委員会を作りたいの提言を受けました。行政関係者も交えて討議、まとめとして地域として先ず考えるべきことは、その負担を少なくするための地域の協力、両者が協働できる仕組みを作ること、後継者が育つ仕組みを作ることが重要である。

✦会館運営について・・・討議の内容と結果は拠点部会活動に反映されています。

⑵　今後の活動の展望（田倉）・・・

「住民協ひろば」（特別号）を全戸配布。「住民協ひろば」を読み「やっと住民協のことが分かった」と耳にした。

まだまだ住民協は周知されず、理解されていないのが現実。その対策は住民協の活動を具体的な形として発することにある。その役割を果たすのが四つの部会。

役員会において、子ども部会による「子ども食堂」の展開、拠点部会による久木会館の「会館祭」の開催が決定している。ふれあい部会においては、すでに”健康寿命を延ばす”をコンセプトとしてポールウオーキング等を実施している。このあとの意見交換会では、この四つの部会をテーマにして、皆様と話し合います。

⑶　部会活動の報告

①　ふれあい部会から龍村・部会長・・・

ふれあい部会は二つの柱を考えて活動を始めている。一つは健康年齢を維持する『運動』のすすめ、具体的な例として山の根でカルチャースクールとして始めた、太極拳・ポールウオーキング・コグニサイズ等の色々な運動を組み合わせた健康維持活動、この活動を地域全体に広めていきたい。

一つはコミュニテーサービスを作る活動、住民同士の生活支援活動として何をどう云う仕組みで実施できるか勉強会を始めている。ふれあいは全世代のふれあいが大切子ども部会とのコラボを進めていきたいと考えている。

②　減災部会から鈴木・部会長代行・・・

「安否確認」が地域の減災の基本と考え、災害時速やかに安否確認が出来る地域づくりを目指す。安否確認が出来て、必要な際の緊急避難に、生活支援へとつながる。

過去の災害で最も頼りになったのはご近所（向う三軒両隣）の人たちであり、「互近助」の関係を創り上げる。「互近助」の関係は普段の生活の中から、意識することにより作り上げられる。避難所訓練の中で行った「在宅避難者への緊急物資の配布」は、「互近助」の一つの姿である。

③　子ども部会から東・部会長・・・

地域の子ども会や学校・ＰＴＡなど既に存在している組織が出来ない何かをじっくりゆっくり考えていきたい。

最初の活動として子ども食堂を計画している。住民協主催、久木会館で、継続事業として考えている。（討議の項参照）

④　拠点部会から小林・部会長・・・

久木会館を運営し始めて４年が経過し、軌道に乗ってきた。更なる発展を期待して来春に「会館祭」を計画している。３０年度から指定管理者を久木連合町内会から住民協に変更するとともに、３１年度から地域活動センターからコミュニテーセンターに変更する計画で進めている。

⑷　討議

重点的に、子ども食堂を中心に討議した。

✦部会長から始める前に決めておきたいこと。

・日程：何時から始める？　・曜日、頻度

・コンセプト：子どもの貧困対策⇔多世代交流

・ネーミング　　・参加費設定

✦上記に関して出た意見は

・理念（コンセプト）を明確にしてスタートするのが望ましい。

・０円が望ましい。一方自前を前提にするので費用の問題が厳しいのではないか。

・人を集めることが大切。人を集めるにはいろいろなメニューがあった方が良い。（一般論として今の住民協ではどこに仕事があるのかわからない。）

✦部会長の東さんからの要望

「当日運営」「企画準備」で有志ボランテイアを募集しますので、次に連絡ください。

azuma@solare-h.com　080(4334)9445

編集後記

秋は、地域でも、広域の市域でも、イベントが続き市民の皆様にとって何かと忙しい季節、あいにく週末には台風を含む荒天となることが続き、運営に携わる方にとっては気がもめることだったでしょう。

久小校区住民協にとっても大切な行事がありました。一つは校区避難所体験訓練、一つは住民協が主催する意見交換会です。いずれも無事終了することができ、それなりの収穫がありました。

紙面の都合で、今月号（第８号）は住民協意見交換会特集としました。第９号を避難所体験訓練特集とする予定です。

折角のイベントなのにもう少し参加者が欲しかったという反省があります。企画内容もさることながら、やはり入り口の広報、如何にして不特定多数の地域の皆様にお知らせするかという基本が、まだまだ不十分だという点が挙げられるのではないでしょうか。

「久木会館で子ども食堂を始めるプロジェクト」が発足しました。子供を軸にして、校区住民の全世代参加の開かれた事業が期待されます。

私も庭の一部を食材供給基地として耕すことを考え始めました。

事務局長　鈴　木　為　之